



## 2021年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2021年1月29日

上場会社名 株式会社 カナデン

上場取引所 東

コード番号 8081 URL <https://www.kanaden.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 本橋 伸幸

問合せ先責任者 (役職名) 経理部長 (氏名) 菅谷 真之

TEL 03-6747-8805

四半期報告書提出予定日 2021年2月4日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2021年3月期第3四半期の連結業績(2020年4月1日～2020年12月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第3四半期	71,619	15.0	1,025	44.3	1,116	42.7	1,168	48.1
2020年3月期第3四半期	84,214	0.4	1,840	22.8	1,948	23.4	2,251	32.3

(注) 包括利益 2021年3月期第3四半期 1,041百万円 (54.0%) 2020年3月期第3四半期 2,264百万円 (159.3%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第3四半期	41.22	
2020年3月期第3四半期	79.01	

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2021年3月期第3四半期	65,820	42,732	64.9	1,592.92
2020年3月期	81,011	44,710	55.2	1,568.54

(参考) 自己資本 2021年3月期第3四半期 42,732百万円 2020年3月期 44,710百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期		23.00		19.00	42.00
2021年3月期		12.00			
2021年3月期(予想)				16.00	28.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2021年3月期の連結業績予想(2020年4月1日～2021年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	108,000	14.6	2,800	24.1	2,800	26.0	2,300	32.7	82.15

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

#### 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- |                    |     |
|--------------------|-----|
| 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 無 |
| 以外の会計方針の変更         | : 無 |
| 会計上の見積りの変更         | : 無 |
| 修正再表示              | : 無 |

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2021年3月期3Q	28,600,000 株	2020年3月期	28,600,000 株
期末自己株式数	2021年3月期3Q	1,773,253 株	2020年3月期	95,385 株
期中平均株式数(四半期累計)	2021年3月期3Q	28,347,456 株	2020年3月期3Q	28,493,435 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

#### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績の見通し等の将来に関する記述は、当社が現時点において入手している情報に基づいております。なお、上記の予想の前提条件その他の関連する事項については、添付資料3ページをご参照願います。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における当社グループを取り巻く事業環境は、新型コロナウイルス感染症のワクチン接種が欧米諸国で開始されたものの、世界的な感染拡大がまだ終息の見通しが立たず、日本国内においても再度の緊急事態宣言が発出される事態となっております。その為、消費マインドの落ち込み、企業収益の悪化による設備投資の抑制、雇用・所得環境の悪化と、国内・海外経済ともに厳しい局面が続き、先行き不透明な状況となっております。

このような状況下、当社グループは、3ヵ年中期経営計画『CI-J-3 (Challenge&Innovation・Joint)』最終年度として、今後も成長が見込まれる環境・エネルギー関連分野に注力し、成長性に重きを置いた事業領域の拡大を図るとともに、高付加価値なシステム・ソリューションビジネスの展開による収益性の向上に取り組んでおります。

しかしながら、売上に関しては、景気の先行き不透明感による設備投資の抑制から、FAシステム事業が苦戦を強いられ、インフラ事業は前期の大口案件剥落により大きく減少となりました。利益に関しては、徹底的な経費削減に努めましたが、FAシステム事業の利益減少が大きく影響し苦戦しました。

その結果、当第3四半期連結累計期間における売上高につきましては71,619百万円（前期比15.0%減）となり、経常利益につきましては、1,116百万円（前期比831百万円減）となり、親会社株主に帰属する四半期純利益につきましては、投資有価証券売却益739百万円を計上しましたが、前期は旧本社社屋及び土地の売却益1,433百万円があったことから1,168百万円（前期比1,082百万円減）となりました。

セグメント別の営業の概況

(単位：百万円)

		前第3四半期連結 累計期間	当第3四半期連結 累計期間	増減率
				増減額
FAシステム事業	売上高	33,509	25,901	△22.7%
	経常利益	1,582	765	△816
ビル設備事業	売上高	8,467	8,567	1.2%
	経常利益	△79	△84	△4
インフラ事業	売上高	25,070	20,270	△19.1%
	経常利益	154	2	△152
情通・デバイス事業	売上高	17,166	16,879	△1.7%
	経常利益	155	352	196

①FAシステム事業

FA分野は、新型コロナウイルス感染拡大による企業活動の停滞や、機械装置メーカー及び自動車産業関連顧客等の設備投資抑制により、駆動機器やコントローラをはじめ全商品群で苦戦し低調な推移となりました。

産業メカトロニクス分野は、放電・レーザ加工機共に案件少なく低調な推移となりました。

産業システム分野は、前期の電気設備の大口案件が剥落し減少しました。

その結果、当該事業としては22.7%の減収となり、経常利益は816百万円の大幅減益となりました。

②ビル設備事業

設備機器分野は、昇降機は前期の大口案件の剥落により減収となりました。一方、情報・通信事業者向け受変電設備が順調に推移しました。

空調・冷熱機器分野は、飲食業を始めサービス業向けが低調に推移し、空調機器が苦戦しました。

その結果、当該事業としては1.2%の増収となりましたが、経常利益は百貨店業向け店舗照明設計工事が苦戦し4百万円の減益となりました。

③インフラ事業

交通分野は、鉄道事業者向け無線通信機器が好調に推移しましたが、受変電設備機器は前期の大口案件が剥落し、設備投資抑制により車両用機器も低調に推移したことから大幅に減少しました。

社会システム分野は、官公庁ビジネスは堅調に推移しましたが、前期の大口案件が剥落し減少しました。再生可能エネルギー関連ビジネスである太陽光発電（メガソーラー）の案件も減少しました。

その結果、当該事業としては19.1%の減収となり、経常利益は152百万円の減益となりました。

④情通・デバイス事業

情報通信分野は、画像・映像機器は前期並みに推移し、電子医療装置が案件増加し増収となりました。

半導体・デバイス分野は、産業用パワーデバイスは産業機器関連顧客の復調により好調に推移しましたが、ハードディスクドライブ用ICは新型コロナウイルス感染症拡大による部材入手難からハードディスクドライブの生産減により減少し、自動車産業関連顧客向け電子デバイス品も低調に推移しました。

その結果、当該事業としては1.7%の減収となりましたが、経常利益は半導体・デバイス分野の産業用パワーデバイスの好調及び高付加価値の無線モジュールビジネスが寄与し196百万円の増益となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、65,820百万円（前連結会計年度末比15,190百万円減）となりました。

流動資産は、51,331百万円（前連結会計年度末比14,032百万円減）となりました。これは、前連結会計年度末と比較して、有価証券が1,600百万円増加、商品及び製品が2,199百万円増加した一方で、現金及び預金が4,873百万円減少、受取手形及び売掛金が11,853百万円減少、電子記録債権が787百万円減少、未収入金が853百万円減少したことが主要な要因であります。

固定資産は、14,489百万円（前連結会計年度末比1,157百万円減）となりました。これは、前連結会計年度末と比較して、投資有価証券が773百万円減少、繰延税金資産が272百万円減少したことが主要な要因であります。

一方、流動負債は、21,198百万円（前連結会計年度末比13,154百万円減）となりました。これは、前連結会計年度末と比較して、前受金が1,109百万円増加した一方で、支払手形及び買掛金が10,817百万円減少、電子記録債務が867百万円減少、賞与引当金が758百万円減少、未払法人税等が992百万円減少したことが主要な要因であります。

固定負債は、1,889百万円（前連結会計年度末比59百万円減）となりました。

純資産は、42,732百万円（前連結会計年度末比1,977百万円減）となりました。これは、前連結会計年度末と比較して、親会社株主に帰属する四半期純利益を1,168百万円計上、配当金の支払が883百万円あったこと等により、利益剰余金が269百万円増加、自己株式が2,113百万円増加したことが主要な要因であります。

その結果、当第3四半期連結会計期間末における自己資本比率は64.9%、1株当たり純資産額は1,592円92銭となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の業績については、現時点では2020年9月16日に公表しました業績予想から変更しておりません。

当社グループを取り巻く事業環境は、新型コロナウイルス感染症のワクチン接種が欧米諸国で開始されたものの、世界的な感染拡大がまだ終息の見通しが立たず、日本国内においても再度の緊急事態宣言が発出される事態となっております。その為、消費マインドの落ち込み、企業収益の悪化による設備投資の抑制、雇用・所得環境の悪化と、国内・海外経済ともに厳しい局面が続く、先行き不透明な状況となっております。

このような状況下、当社グループは、3ヵ年中期経営計画『CI・J-3 (Challenge&Innovation・Joint)』最終年度として、今後も成長が見込まれる環境・エネルギー関連分野に注力し、成長性に重きを置いた事業領域の拡大を図るとともに、高付加価値なシステム・ソリューションビジネスの展開による収益性の向上に取り組んでおります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	14,663	9,790
受取手形及び売掛金	33,092	21,239
電子記録債権	5,973	5,186
有価証券	4,800	6,400
商品及び製品	4,562	6,762
原材料及び貯蔵品	3	2
その他	2,272	1,952
貸倒引当金	△3	△2
流動資産合計	65,364	51,331
固定資産		
有形固定資産	9,142	9,030
無形固定資産	396	424
投資その他の資産		
投資有価証券	5,182	4,408
その他	1,026	722
貸倒引当金	△100	△95
投資その他の資産合計	6,108	5,034
固定資産合計	15,647	14,489
資産合計	81,011	65,820

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	24,032	13,214
電子記録債務	4,559	3,692
未払法人税等	1,036	43
引当金	1,216	439
その他	3,508	3,808
流動負債合計	34,352	21,198
固定負債		
退職給付に係る負債	1,658	1,603
その他	290	285
固定負債合計	1,948	1,889
負債合計	36,301	23,087
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,576	5,576
資本剰余金	5,356	5,349
利益剰余金	32,472	32,741
自己株式	△123	△2,236
株主資本合計	43,282	41,431
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	964	864
土地再評価差額金	378	378
為替換算調整勘定	△15	△75
退職給付に係る調整累計額	100	133
その他の包括利益累計額合計	1,428	1,301
非支配株主持分	-	-
純資産合計	44,710	42,732
負債純資産合計	81,011	65,820

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)
売上高	84,214	71,619
売上原価	73,411	62,283
売上総利益	10,802	9,336
販売費及び一般管理費	8,962	8,310
営業利益	1,840	1,025
営業外収益		
受取利息	18	9
受取配当金	137	92
仕入割引	18	15
その他	51	55
営業外収益合計	226	173
営業外費用		
支払利息	8	10
売上割引	52	39
為替差損	25	25
その他	31	7
営業外費用合計	118	82
経常利益	1,948	1,116
特別利益		
固定資産売却益	1,433	-
投資有価証券売却益	15	739
特別利益合計	1,449	739
特別損失		
事務所移転費用	65	-
投資有価証券売却損	0	3
固定資産除却損	4	66
特別損失合計	70	69
税金等調整前四半期純利益	3,326	1,785
法人税、住民税及び事業税	321	327
法人税等調整額	753	290
法人税等合計	1,075	617
四半期純利益	2,251	1,168
非支配株主に帰属する四半期純利益	-	-
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,251	1,168



(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)
四半期純利益	2,251	1,168
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	45	△99
為替換算調整勘定	△70	△60
退職給付に係る調整額	37	33
その他の包括利益合計	12	△126
四半期包括利益	2,264	1,041
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,264	1,041
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2020年12月22日開催の取締役会決議に基づき、2020年12月23日に東京証券取引所の自己株式立会外買付取引 (ToSTNeT-3) により、普通株式1,704,500株を取得致しました。これにより、単元未満株式の買取り等による増減を含め、当第3四半期連結累計期間において自己株式が2,113百万円増加し2,236百万円となっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				
	FAシステム事業	ビル設備事業	インフラ事業	情通・デバイス事業	計
売上高					
外部顧客への売上高	33,509	8,467	25,070	17,166	84,214
セグメント間の内部売上高又は振替高	96	44	2	45	188
計	33,605	8,511	25,072	17,212	84,402
セグメント利益又は損失 (△)	1,582	△79	154	155	1,813

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容 (差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	1,813
全社費用 (注)	135
四半期連結損益計算書の経常利益	1,948

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び営業外損益であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間（自2020年4月1日至2020年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				
	FAシステム事業	ビル設備事業	インフラ事業	情通・ デバイス事業	計
売上高					
外部顧客への売上高	25,901	8,567	20,270	16,879	71,619
セグメント間の内部 売上高又は振替高	33	82	10	64	190
計	25,935	8,650	20,280	16,944	71,810
セグメント利益又は損 失(△)	765	△84	2	352	1,036

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	1,036
全社費用(注)	79
四半期連結損益計算書の経常利益	1,116

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び営業外損益であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。